

地域生涯学習への支援

テレビ新広島文化大学

2008年度からテレビ新広島（TSS）文化大学「一般教養講座」に講師を派遣している。

この事業のきっかけは、当時TSS文化大学で講師を務めていた沖村雄二会員から広大マスターズの安藤忠男幹事に、「TSS文化大学では農業・環境関係の講師を探しているので、広大マスターズを紹介したい。」と相談があったからである。安藤は早速TSS文化大学事務局長の西原博氏と面談し、広大マスターズが毎月1回の講座を担当することで話がまとまった。幸いこの講座は好評を博し、2年後には農業・環境関係の枠を取り払い、広い学問分野で講師を派遣することになり、講義の内容を「学問の散歩道」として広大マスターズのホームページに掲載する現在の形になった。

2008年度は「農業・環境シリーズ」という主題のもとに、第1話「広島県沿岸部水没す!? - 地球温暖化と私たちの暮らし -」（安藤忠男）、第2話「広島県の大地と風土」（沖村雄二）、第3話「里山の体験教育」（西村清巳）、第4話「アユカケの不思議 - 子供の成長と自然環境 -」（宗岡洋二郎）、第5話「魚の肥満 - 養殖魚はまずいか -」（中川平介）、第6話「日本肉食史」（山本義雄）、第7話「ヒトと家畜の胃と腸」（岡本敏一）、第8話「調理を科学する」（鈴木寛一）、第9話「中高年者と食中毒」（川上英之）、第10話「酵素：食品での役割？食品機能と組み合わせで」（太田安英）、第11話「平和都市・広島から農業や環境問題を考える」（山本禎紀）の合計11回の講義を行った。以後2009年度11回、2010年度12回、2011年度11回、2012年度11回、2013年度10回、2014年度9回、2015年度9回、2016年度6回と、広大マスターズのもつ多彩な人材を派遣して特色ある講義を提供している（詳細は、巻末の「資料編」[各種行事・事業リスト] テレビ新広島文化大学p. 55を参照）。

講演内容は「学問の散歩道」として、広大マスターズのHPに掲載されているので、ご一読いただければ幸いである。

（谷本能文）



2013年度 TSS 文化大学
一般教養講座「旧暦の美学—生活とカレンダー」金田 晋



2016年度 TSS 文化大学
一般教養講座「書は心画なり」牟田泰三

■ ■ ■ ちゅーピーカルチャーセンター（東広島）

ちゅーピーカルチャーセンター（西条教室）は中国新聞情報文化センターと提携しているセンターで、西条地区の市民生活がより豊かになるべく一般市民を対象に文化・教養など各種講座を開いている。

講座のテーマは市民のニーズに応える視点、地域広範な領域に及ぶ横断的な視点などの面から聴講者にインパクトのある時流に適したテーマを選定している。

広島大学マスターズは平成25年より同センターからの要請を受け講師を派遣している。

派遣している講座は

・3ヶ月ごとに継続して行っていく「レギュラー講座」

・月に1回各講師持ち回りによる1年間を通じた講座「ちゅーピーカルチャーセンター東広島大学」の2種類となっている。

その他夏休みなどに要望に応じて単発で行っていく「夏休み特別講座」があり、講座が開かれるときに講師を派遣している。

「レギュラー講座」には平成25年（2013年）3月から、「ちゅーピーカルチャーセンター東広島大学」には平成27年（2015年）1月から講師の派遣を始めている。平成28年は「レギュラー講座」が「水彩・油絵」と「近代美術の世界」の2テーマ、「ちゅーピーカルチャーセンター東広島大学」が「暮らしを支える“土”」や「生態系の成り立ちと未来」などの12テーマとなっている（詳細は、巻末の「資料編」[各種行事・事業リスト] ちゅーピーカルチャーセンター講座p. 57を参照）。

広島大学マスターズは会員が保有している知的財産を東広島市の市民に還元し活かしていく社会連携事業のひとつとして活動している。

将来に向けてさらに充実を期しているので、お気づきの点やご要望がありましたら、遠慮なくご提案くださるようよろしくお願いします。

（井上宣邦）

広報活動

HM通信

総会、例会、懇親会の案内を第1頁に掲載し、次頁以後に活動報告、会員の近況報告等を載せる編集方針で発行してきた。2006年12月の「創刊号」をかわきりに、現在（2016年12月）までに31号を発行した。なお、初期には臨時に「広大マスターズ・ポスト」、「広大マスターズ・号外」も発行している。

「広島大学マスターズ通信」第1号～31号および「広大マスターズ・ポスト」、「広大マスターズ・号外」のバックナンバーは、広大マスターズ ホームページ「会員版」(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/backnumber.html>) から、ダウンロードできる。

ホームページ

広島大学マスターズの公式ホームページは2007年4月に太田安英幹事によって立ち上げた。その後、2008年11月に一般向けのホームページとして、ホームページ「瓦版」(担当：太田安英)を開設し、先に開設していたものは2011年8月に会員向けのホームページ「会員版」(担当：平田敏文)として改訂し、現在に至っている。なお、ホームページ「瓦版」には、[Facebook]、[Twitter]の窓口も開設している。



ホームページ「会員版」の表紙
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/>)



ホームページ「瓦版」の表紙
(http://www.geocities.jp/hirodai_ob/index.html)

パンフレット

2013年4月に、「パンフレット」を作製した。A4判サイズで3つ折りで、表紙には「地域と共に学びの場を拓く」と題し、地域貢献を第一とする組織であることを示した。具体的活動は、見開き写真入りで「広島大学マスターズ（HM）とは？」で紹介した。また、広大マスターズの歴史と主な活動を2006年の発足時から記載した。我々の活動を広く理解していただきたいと考え、公開講座等の機会に、配布した。

「広島大学マスターズ」へようこそ
 渡部和彦（代表幹事）

「広大マスターズ」は、広大教職員OBを中心として、2006年に組織されました。主な目的は、広大および地域との連携・協力活動、会員の交流活動、そして、自主的な情報発信活動等です。

「広大マスターズ市民講座」のほか、東広島市主催の各種講座への協力など、地域連携活動をしてまいりました。広島大学とは、平和科目講義や留学生教育などで連携・協力を行っています。

「広大マスターズ」は、全国的にも例が稀いとされる、ユニークな組織と活動ですが、今後とも、地域と共に進んでまいります。皆様の温かいご支援と共に、活動がご参加下さることを心から願っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。
 （2012年10月）

広大マスターズの幹事の紹介

- 安藤 忠男（生物園科学研究科）
- 井上 富邦（産学連携センター）
- 大田 安英（生物園科学研究科）
- 金田 晋（総合科学部）
- 栗川 正流（総合科学部）
- 菅川 健二（法学部専攻）
- 中川 平介（生物園科学研究科）
- 難波 平人（教育学研究科）
- 原野 昇（文学研究科）
- 平田 敏文（理学研究科）
- 松田 治男（生物園科学研究科）
- 山本 雅雄（生物園科学研究科）
- ◎渡部 和彦（教育学研究科）

◎は代表幹事、○は副代表幹事
 （ ）内は、退職時の所属

広大マスターズの歴史と主な活動

- 2006.12.02 広大マスターズ設立
 （代表幹事 金田 晋）
- 2006.12 「マスターズ通信」第1号の発行
- 2007.04 東広島市生涯学習システム運営協議会（加盟）
- 2007.04 広大マスターズ専用のホームページを開発
- 2007.06 「出前講座」、「出前授業」に講師派遣を開始
- 2007.10 「広大マスターズ市民講座」を開発
- 2008.04 「TSS文化大学」一教養講座に講師派遣を開始
- 2008.07 市民向けホームページ「直結」を開発
- 2011.02 広島大学「留学生のための短期研修講座」に講師派遣を開始
- 2011.04 広島大学教養教育「平和科目」に参画し、2科目（4単位）を提供
- 2011.10 広島大学「日韓共同理工系学部 留学生」の予備教育に講師派遣
- 2011.11 広大マスターズが、広島大学長表彰を受賞
- 2012.06 第7回総会において、新代表幹事として渡部和彦を選出

Hiroshima University Masters

広島大学マスターズ

地域と共に
 学びの場を拓く

広島大学マスターズ

連絡・問い合わせ先

〒739-0043 広島市西条西本町28-6
 サンスクエア東広島3F
 広大サテライトオフィス内 マスターズ事務局
 Eメール: masters@hiroshima-u.ac.jp または、
sec-masters@phenix.hiroda.jp
 ホームページ:
 (会員用) <https://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/>
 (公開) http://www.geocities.jp/hiroshimaj_oly/index.html

広島大学マスターズ（HM）とは？



広島大学マスターズ

会員の交流活動

HM通信の発行
 会員向けHPの発信
 ワーキングの会
 名所旧跡や施設めぐり
 通まつり懇親会

自主的活動

情報発信
 （市民向けHP「直結」）
 出張授業（小学校等）

広島大学との連携・協力

「平和科目」等の講義
 留学生教育への協力

地域との連携・協力

東広島市との連携・協力
 （市民講座・出前講座など）
 TSS文化大学への講師派遣

見学会



ワーキング大会



市民講座



出張授業



■ ロゴ



2006年12月の設立総会において、広島大学マスターズの「ロゴ」が決定された。このロゴは、難波平人会員のデザインによるもので、「グリーン」のHは、広島大学のアルファベットの頭文字であり、同時に二人の人物が向かい合って連帯の握手をしている姿でもあって、色彩で緑の台地をもイメージしている。Hを少し倒しているのは、動きを意識したものである。赤のMはタテ棒をHと共有しているが、基本的に飛び上がる翼、あるいは地を割って生まれる若い双葉をイメージしている。赤は、マスターズの気炎、気概を表している」。

■ 旗・ペナント

広大マスターズは、オリジナルの「旗」と「ペナント」を作った。我々の活動を広く理解していただきたいと考え、公開講座等の機会に、「旗」を掲げることにしている（難波平人会員によるデザイン）。



連携団体

広島大学マスターズ広島

広島大学マスターズ広島は、わがHMの活動を範として、その4年後の平成22年8月7日に発足した。広島市に在住する広島大学元教職員を中心に、志を同じくする市外者をも糾合し、会員の親睦を基盤に、大学と地域の連携を図りながらさまざまな活動を進めている。広島市長（松井一実市長）と広島大学学長（当時浅原利正学長、現越智光夫学長）を顧問としていただく。現代表幹事は井上研二。会員数122名（2016年6月30日現在）。事務局は広島大学東千田キャンパス内に置く。

わがHMとは、よき兄弟あるいは姉妹関係。地域単位の活動を重視する方針のもとそれぞれ独立した組織であることを堅持しながら、広島大学の教養教育「平和科目」、留学生を対象とする「日韓留学生予備授業」、またTSS文化大学への講師派遣等で協力し合っており、今年度から広島大学東千田キャンパスに開設された「東千田未来創生センター」の各種事業には、両組織の包括する名称としての「広島大学マスターズ」の一翼として参加している。

HM広島は、これまで「マスターズ広島News Letter」を18号まで発行してきた。去る8月27日、第7回総会・懇親会を開いたばかりである。

現在、同センターに構想中の社会人向け大学院のための共通授業科目として「学問と社会」と「健康生活科学」の2科目を提案、その準備をすすめている。HM広島独自の道が開かれてゆくことを期待する。

（金田 晋）

広大マスターズ友の会

広島大学マスターズは、市民を対象とした、公開講座をいくつも開設している。「広大マスターズ友の会」（以下「友の会」）は、その公開講座の受講生が主体となり、立ち上げられた組織である。公開講座の受講を通して、折角知り合いになる機会を得たので、広島大学マスターズでの新しい企画などを引き続いてお知らせをしたいとの考えがあった。「友の会」は、独自の活動を行なうと共に、広島大学マスターズ主催の講演会や海外研修旅行、ウォーキング大会など様々な活動に参加・協力をいただいている。「友の会」の設立総会では、難波平人会員（幹事）による、「世界の美術紀行」と題する記念講演が、東広島市中央学習センター 3階小ホールで行われた（平成26年8月23日）。

「友の会」役員には、広島大学マスターズから「参与」として、数名が参加し、相互に連携が取れる体制になっている。今後とも、広島大学マスターズ主催の市民講座等に参加される方の中から「友の会」の会員が増え、地域における活動の輪が広がることを期待される。

（渡部和彦）

その他の活動

広島大学マスターズが東広島市の地域おこしにどのような貢献ができるか、を知るために、2007年春、東広島市教育委員会と相談して、それぞれに先進的な活動をされている海岸部の安芸津町大芝島、山間部の河内町宇山地区を選び、地域おこしの諸活動の実際を見学した。当地の代表者たちと面談し、その地の現状と展望を聞き、HMの今後の活動の指針とした。秋には「宇山ふれあいまつり」に招待された。また安芸津町の農家の誘いを受けて、学生などに声をかけて、「ミカン狩り - 援農の試み」を企画し、手が足りずに放置の瀬戸際に立たされているミカン園の収穫に参加し、収穫したミカン等を大学の生協食堂に運んだ。

2007年度～2010年度には東広島市生涯学習課主催の「東広島市生涯学習フェスティバル」（東広島市運動公園体育館）に参加し、広島大学や近畿大学等と並んでブースを出し、広島大学マスターズの活動を紹介した。

2009年度には、東広島市に住む小中学生の学習・教育状況に積極的に貢献することの第1弾として、現場の小・中学校の担当の先生方を集めて、児童を放課後も学校で預かるという「放課後教室」をどのように充実させればよいかについて、広島大学マスターズ主催・東広島市共催で、「ワークショップ：子供の放課後を考える」（第1部「放課後子ども教室 実践報告」第2部「パネル・ディスカッション」）を開催した。（詳細は、下記の「HM通信：第14号の記事から」 p. 38を参照）

また、テレビ・新聞社等の文化教室については、既にTSS文化大学の実績があるが、中国新聞情報文化センターとも実施の方向で、具体化をすすめた。広島市内の各種市民・文化講座を見渡すとき、理科系の講座が不足している。その不足を補うというセンター側の要望に応じて、2010年には、理科系の講師陣をそろえて、「広大マスターズ教養講座」（6回オムニバス講義）を開催した。安藤忠男「分かりやすい地球温暖化」、沖村雄二「岩石が語る地球の歴史」、松田正典「宇宙の始まりは」、角谷哲司「最新出産事情」、川上英之「食中毒予防はこうして」、中川平介「マグロ、クジラは絶滅するか」。だがいずれの講義も受講者が5名に届かず、沖村会員以外は翌年度以降閉講。

2011年11月広島大学マスターズは「第10回（平成23年度）広島大学長表彰」を受けた。表彰理由「貴会は、平成18年に設立されて以降今日まで市民講座を200回以上開催され、さらに今年度からは本学の教養教育にも参画されるなど地域社会への貢献と本学の教育や社会連携事業への支援を通して本学の発展に顕著な貢献をされました。」（詳細は、下記の「HM通信：第21号の記事から」 p. 41を参照）

（平田敏文）

「HM 通信」の記事から

東広島市生涯学習フェスティバルに出展しました

<第17回東広島市生涯学習フェスティバルが2007年11月3、4の両日、東広島市運動公園体育館で開催され、広島マスターズも初参加した。以下は会場設営とプレゼンテーションを取り仕切った安藤忠男幹事の報告である。非常に詳細な報告であり、今後の参考になると思われるので、全文を掲載する。>

広島大学マスターズは2007年11月3、4日の第17回東広島市生涯学習フェスティバルに初めて出展し、好評だった。会場は市の運動公園の体育館。マスターズに割り当てられたブースは幅3.6m、奥行き2.7m、高さ2.4mもある。発足後1年足らずなので、とりあえず会の組織と活動を紹介することにした。マット紙に印刷したAゼロ版のポスター27枚を切り張りして、幅2.6m、高さ1.5mの巨大ポスターを3枚制作した。右側面には、設立総会の写真を中心にマスターズを紹介し、正面には市民講座、学校への出前講座、市のまちづくり出前講座など現在実施中の活動を、そして左側面には地域社会との連携を模索しているマスターズを紹介した。初日の午前中、知人がブースに立ち寄ってくれたが、多くは目もくれずに前を通り過ぎるばかりである。これでは苦労した甲斐がない。昼前に自宅に戻りポスターを使ったクイズを考案した。ポスター中央には化石を持って授業している沖村会員の写真がある。その右には宗岡会員らの魚の話が載っている。たまたま私はブラジルで買った魚の化石をはさんだ石と小魚の化石を使ったペンダントを持っている。「この石の中には何が入っていますか？正解者1名にそれを使ったペンダントをあげます。答のヒントは、ポスターの写真と説明文にあります。」と書いたビラと解答用紙100枚を用意して会場に戻った。ブースの机の上に赤い布を敷き、その上に金色の紐で縛った化石を置いた。「クイズをしてみませんか？賞品は珍しいペンダントです。」と通りがかりの人に声をかけると子供から高齢者までブースに入ってくれる。若い女性にも気軽に声をかけられる。クイズが始まると3時間ほどは呼び込み、クイズの説明、マスターズの紹介と腰をかける間もなかった。100名様限定としたクイズは両日も3時間ほど実施し、200枚用意した解答用紙は時間前に完売となった。おそらく300名くらいの人たちがブースに来てくれたことだろう。おまけにクイズの答を探そうとポスターを隅から隅まで良く見てくれる。一石二鳥である。賞品は公開の抽選の結果、高屋町のご婦人が手に入れた。今回のフェスティバル出展はマスターズを地域社会へ紹介する良いきっかけになったし、これを機にマスターズの協力を得たいという人も何人か現れた。これで準備から後片付けまで丸々4日間つぶした苦労も多少報われた気がした。(安藤忠男)

「ワークショップ：子どもの放課後を考える」を実施しました

本ワークショップは、日本の教育社会学会の重鎮で、児童の放課後対策に精力的に取り組んできた原田彰会員が、東広島市教育委員会とタッグを組んで、表記のワークショップを企画・コーディネートした。以下は原田会員の総括報告である。

「ワークショップ：子どもの放課後を考える」を終えて

広島大学マスターズ主催・東広島市教育委員会共催の「ワークショップ：子どもの放課後を考える」は、平成21年2月28日、関係者及び市民一般112人が参加し、第1部「放課後子ども教室」の実践報告、第2部「パネル・ディスカッション」という2部構成で開催された。

「放課後子ども教室」（文部省補助事業）は、平成19年度は東広島市内9教室、20年度は15教室で実施され、21年度は20教室、さらに全小学校区（37教室）に拡充される予定である。今回は、志和堀小・河内小・三ツ城小という3つの小学校区の「放課後子ども教室」の推進者による実践報告があった。この報告を踏まえて、「パネル・ディスカッション」では、「教室」推進者、小学校長、青少年育成行政、保護者などの立場から各パネラーの発言があり、また広島大学マスターズからは子どもの自然体験活動の指導者である西村清巳氏が議論に加わった。

以下、実践報告とディスカッションの中から、「放課後子ども教室」のあり方を考えていくうえで参考になると思われる意見を要約した。

1. 実践報告は、「教室」の実施内容や形態が地域ごとに異なり、地域の特色が出る「教室」の推進が求められていることを印象づけた。
2. 「教室」の推進には地域ボランティアの協力が不可欠であるが、学習アドバイザーに人材がもっと欲しいというパネラーの訴えがあった。
3. 「教室」の存在意義はどこにあるのかを徹底して考え、「教室」がなぜ必要なのか、実践を通してその理由を見つけ出すことができた、と語る推進者の発言があった。何のための「教室」なのかに関しては、パネラーから力強い意見が出された。「教室」は単に子守りをする場ではない。何か適当にメニューをそろえればよい場でもない。やらないといけないことは何なのか、しっかりしたものを持たねばならない。

子どもが行う活動については、こういうことを身につけさせたいというねらいを持つことが大事である。このような発言があった。

4. 「教室」が実施されるようになって、小学校で見る子どもたちの姿に変化が生まれた、という発言があった。「放課後子ども教室」は、子どもたちに必要な「3間」（時間、空間、仲間）を取り戻す機会になっている、という。
5. 青少年健全育成の視点から見ると、この「教室」によって、地域の人々とのふれあいが生まれるとか、ルールを身につけることによって規範意識を高めていく、といった効果が期待される、という意見

があった。

6. 「教室」では、活動の場としては、ただ自由に体を動かしていればよいのではなく、子どもが気づかないでいることを気づかせてやることが重要であり、他方、学習の場としては、学校の学習の基礎になることを身につけさせることも必要である、という意見が出た。
7. 「教室」のコーディネーターの視点から、「①継続すること、②「教室」を支える人を確保すること、③「教室」の仕事は、同じ子どもを相手にしても公民館活動とは異なること」の大事さが指摘された。また自然体験活動の視点から、子どもの活動に「①感性を育てる、②好奇心を育てる、③人間関係づくり、④体力づくり」といったねらいをしっかり持たせることの大事さを強調する意見が出た。
8. 「大人に楽しいことが子どもにも楽しいとは限らない」、「ただ楽しいだけでなく、やりとげる楽しさを」といった発言が印象に残った。

意見のすべてを網羅できないのは残念だが、ここには、今後の実践を通じて深めていくべき課題が示唆されているように思われる。ご協力をいただいた関係者の方々に感謝の意を表するとともに、「放課後子ども教室」のさらなる発展を祈りたい。(コーディネーター・原田彰)

HM 通信 第 14 号 (2009 年 4 月発行) より抜粋

市民講座「子と親のための『野っ原探検講座』」が大盛況でした

自然との接し方を親子で楽しく学んでもらおうと、フィールドで活動してきた4人のマスターズ会員が川や原っぱ、山で4つの講座を企画した。

第 1 回 (8月24日 (日)) 「ホタルの川の探検とナマズ捕り」(於・関川、宗岡洋二郎会員指導)

8組の親子22名を含む28名が志和の里で楽しい一日を過ごしました。午前中は宗岡先生から魚の体色変化やホタルの生態・発光のお話と実験。暗くした会場で、子供たちがコップの水に溶かしたホタルの蛍光色素、酵素、ATPを混ぜるとコップが明るく輝き、どよめきが起こりました。昼食後は近くの小川に出かけ、宗岡先生から魚の捕り方の手ほどきを受けた後、高学年の子は腰まで水につかりながら関川で、低学年の子は半川などの浅瀬で魚とりに挑戦しました。ナマズこそ捕れませんでした。体長30cmほどのコイや6種類もの魚、エビ、昆虫を捕まえるなどして皆大喜びでした。

3時近くに会場の志和堀公民館に戻ったら、地元のご婦人方が用意してくれたごちそうが待っていました。前日に宗岡先生が釣った体長60cmものナマズのから揚げ、志和のお米のおむすび、地野菜のてんぷらなど盛りだくさんの料理がきれいに皆のおなかにおさまりました。昼食から3時間も経っていないのに外で遊ぶとおなかですくのですね。初めて出会った子供達も親たちも皆すっかり仲良しになっていました。3時半ころ散会。(安藤忠男記)

第2回（9月14日（日））「みどりの牧場で土の世界探検」（於・広大附属農場、安藤忠男会員指導）

雨天の合間の晴天日となった9月14日（日）、前回と同じく8組の親子21名を含む29名が広大附属農場で楽しく過ごしました。午前中は土をつかった簡単な実験をしたり、ブラジルやインドの土を触りながら、クイズ形式で「土とはどんなもの？」について勉強した後、土をこねて思い思いのモノ作りに取り組みました。この日に誕生日を迎えた弟へのバースデイケーキ、農場の牛、お月見団子などなど素晴らしい作品ができました。お昼は農場の芝生で昼食パーティー。参加者が持ち寄ったおいしいお弁当を皆で食べあってお腹を満たした後は、農場の牛さん、羊さん、豚さん、山羊さんにご挨拶。それから牧場の草地まで散歩して岩石からできた土の断面を観察しました。足もとの土の中を初めてじっくり見た子供達も多かったようです。広々したところに出るとじっとしてはいられない子どもたちは、草地の小高い地点まで競争で駆け上がり、息を切らせて眺めの素晴らしさに感心。そのあとは広大総合科学部、文学部、工学部の学生諸君4名の指導でヒツジとオオカミなどの牧場に関係の深いゲームを楽しみ、午後2時半に散会しました。（安藤忠男記）

第3回（10月13日（日））「里山で遊ぼう」（於・七塚原高原、西村清巳会員指導）

体育の日、快晴。総勢28名（一般参加24名、学生ボランティア3名、市教委生涯学習課職員）

9時開始：倉田さんと学生ボランティアが来てくれたので、どんぐり標本用ペットボトルの準備やドングリパン、リンゴジャム、野菜スープ用の材料、炊飯用具の準備をしてもらいました。10時：全員キャンプ場に集合。万葉の森、約1キロを歩きます。テーマは「どんぐりの標本12種類集める」食べられる木の実を食べよう、ただし樹木は子孫を残すために実をつけています。鳥さんや、小動物さんに食べてほしいのです。人間が食べるのは迷惑だと思っています。少しだけいただきます。歩き始めるとどんぐりにはあまり注意がいかにクリ拾いばかりに集中しました。万葉植物を横目で見ながら遠慮勝ちに解説。クロモジ、サンショウなど森の香りをかいてもらいました。11時20分：キャンプ場に帰って、ドングリパン生地づくり、ドングリの皮むき、きざみ、リンゴジャムのリンゴきざみ、野菜切り、ドングリパン焼きの炭火起こし、役割分担して子どもたち頑張る。仕上げは大人がしたかな。12時30分から、竹の串（70cm）にドングリ入りパン生地を巻きつけて炭火で焼き始める。火が強いので休まず竹串を回す。10分くらいでふっくらこんがり焼き上がる。焼き上がる順にジャム、野菜スープと一緒に昼食。みんなの笑顔添えて美味しい食事が出来ました。ドングリ標本「アラカシ、シラカシ、クヌギ、コナラ、アベマキ、ナラガシワ、クリ、スダジイ、つぶらジイ、マテバシイ、ウバメガシ、カシワ」をペットボトルに飾って食べられるドングリ、食べられないドングリ、食べられない（渋い）ドングリを説明。みんなで後片付けして14時終了。お疲れ様。高木さん、福田くん、秋月さんご苦労様。（西村清巳記）

第4回（11月9日（日））「東広島の大い探検」（於・西条龍王山憩いの森公園、沖村雄二会員指導）

指導補助：森山宏一さん（元崇徳高等学校教諭・地学）学生ボランティア：高木さん・秋月さん・福田さん

13～16時。一般参加者24名。

東広島市に発達する岩石や、シルクロード地域にあった「古地中海」(古～中世代に存在したテチス海)の古生物(アンモナイト・サンゴ・二枚貝・腕足類など)を展示するため、安藤先生をはじめスタッフ一同は憩いの森公園セミナーハウスに1時間前に集合して、打合せ。展示作業を行い、13時開講の雰囲気盛り上げることができました。

参加者が揃って定刻に開講。探検するコースの地図を配り、龍王山に分布する岩石(花崗岩。流紋岩はない。)と鉱物・遺跡のあらましについて説明した後、野っ原探検に出かけました。龍王山の南斜面に刻まれた半尾川支流の土手「日だまりの庭」では、龍王山には分布しない庭石様の十数個の結晶片岩(伊予の青石や赤石)を観察、ヤマモモの老木、半尾川の親柱、花崗岩でつくられた古墳を見学、かつての市町村には必ずといってよいほどあった雨乞いの山=龍(竜)王山を遠望しました。

シンボル庭園の急坂を上って展望台へ。ここでは、半尾川の出口が狭くて西条駅付近に扇状地が形成されて、お酒の醸造に使われる地下水が貯められている地層のあることや、龍王山の名水に疑問があること、そして展望台のある広い平坦地形が地滑りによって形成され、半尾川の貯水層として役立っていることなどを話しました。この平坦地形の南斜面の見晴らしのいいところにつくられた大きな小山第1号古墳では、多くの包有物(捕獲岩)を含む花崗岩にこだわった石棺の築造に驚きの声が出ていました。ちなみに、この岩石の分布は、半尾川沿いに厚さ数メートルの岩脈として発達しているにすぎません。

地滑り堆積物の前面の急坂を下って半尾川床へ。花崗岩に発達する方状節理に起因する小さな滝の2態と、僅かに南に傾斜する川床の平坦な節理面に沿って、兩岸の上部が川の中心に向けて滑っている様子を見学。キツネやイタチの糞をみながらキャンプサイトを南下して断層鏡肌と擦痕(触ってみて、手前の岩石が南へずれたことを体験。)を確かめて野っ原探検を終了(約1時間半)し、セミナーハウスへ。

見学した地質や遺跡について写真や図をつかった復習、100点余りの化石に触って昔の生物に思いを重ねながらクイズとアンケートに答え、くじ引きでおみやげの化石を手にした全員が一喜一憂。ご父兄の皆さんからも、よく訪れる龍王山の自然の不思議についていろいろ勉強することができたと、感謝のお言葉をいただきました。(沖村雄二記)

HM 通信 第21号 (2012年1月発行) より抜粋

新年のご挨拶

代表幹事 金田 晋

あけましておめでとうございます。会員の皆様方、変わらずご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年は日本の国づくりが根底から揺すぶられる年でした。3月11日に東日本太平洋岸を襲った大震災、それに連動して起こった福島原発の事故。放射性物質が関東地方一円に撒き散らされました。多くの人命が失われ、村落が消え、町が、都市が跡形もなく流失してしまいました。今もその汚染の恐怖から、人々は解放されていません。その過程を通じて近代の科学技術のあり方が根底から問われ、科学者た

ちのモラルが問われました。その問い返しを、私たちは科学者としてみずからに課してゆかねばなりません。

そのような激動の一年でしたが、わが広島大学マスターズにとっては、創設5年目にして、大きな飛躍の年となりました。昨年11月24日、広島大学から学長表彰を受けました。創設以来の私たちの活動が広島大学から高い評価を得たことを、私たちは素直に喜びたいと思います。

創設以来、私たちは市民講座や出前講座、さらにはワークショップ等によって、東広島市が推進する生涯学習事業に参画してきました。昨年からは、広島大学における留学生教育への授業提供、23年度開始の平和科目（選択必修2単位）への参画（「平和と人間A」および「平和と人間B」）をはじめました。教職員OBが、広島大学のある東広島市の文化力向上とかつて勤務した広島大学の教育研究に、今また組織的に参与してゆくというあり方は、おそらく日本全国で初めての試みで、先駆的活動だと自負しています。

新しい年がはじまります。私たち広島大学マスターズの力の源泉は、会員の心意気にあります。会員は現在76名（顧問、協力会員を含めて）、その和気藹々の親睦の中からマスターズの力が育つのだと信じています。会員の例会は昨年で11回をかぞえました。例会といっても、「こんなところに行ってみたい、見てみたい」との会員の声をもとにしてきめた近くの名跡、邸宅、研究機関、企業・工場への見学等が主で、もちろんご家族や友人にも開かれています。お花見や健康増進のためのコースもあります。これに1年1回の総会、「西条酒まつり」初日に開く年1回の懇親会を加えると、親睦の集まりは年4回以上ということになります。その集まりの中から、私たちの次の活動が生まれてきました。

東広島市には、有資格なのにまだマスターズに加入されていないかつての同僚がまだたくさんいます。その方々にも声をかけて、私たちの組織をもっともっと強化してゆくことも、今年の課題だと思います。ぜひ周囲にそのような方がおられましたら、入会をおすすめください。

本年もよろしくお祈りします。

広島大学マスターズ、第10回広島大学長表彰を受けました

11月24日（木）、広島大学マスターズは第10回（平成23年度）広島大学長表彰を受けました。11時から学生会館レセプションホールで授与式が行われ、金田晋代表幹事、安藤忠男副代表幹事、平田敏文広報担当幹事が出席しました。浅原利正学長から表彰盾（写真参照）を、原田康夫同窓会会長から記念品（電子置時計）をいただきました。

本表彰は本会が地域社会への貢献と教育啓蒙活動の両面から高い評価を受けた証しであり、会員全員で慶賀したい快事でありました。「平成18年に設立されて以降、今日まで市民講座などを200回以上開催され、さらに今年度から本学の教養教育にも参画されるなど、地域社会への貢献と本学の教育や社会連携事業への支援を通して、本学の発展に顕著な貢献をされました。」（表彰理由）

なお、マスターズ会員の永井克彦氏が物理学の方面で顕著な研究業績をあげたことを顕彰して学長表彰を受けられこともお伝えします。おめでとうございます。



HM 通信 第23号 (2012年8月発行) より抜粋

ごあいさつ

代表幹事 渡部 和彦

2012年6月2日に開催された、第7回広島大学マスターズ総会において、代表幹事に推挙された渡部です。何かと経験不足で、不安が先に立つのですが、皆様方のご指導、ご鞭撻を得ながら精いっぱい努力させていただき覚悟です。どうぞよろしく願いいたします。

広大マスターズは、発足以来6年になりますが、その間多くの試みに挑戦し、実績を積み上げてまいりました。そのいくつかを挙げると、東広島市教育委員会主催の市民講座への協力。同生涯学習まちづくり出前講座へのプログラム提供。自主出前講座、出張事業、TSS文化大学への講義担当など、会員が各自の専門を生かした素晴らしい地域貢献活動があります。また、広島大学教養教育「平和科目」、広島大学留学生対象の特別講義など広島大学への貢献があります。さらに、マスターズ会員を対象とした「広島大学マスターズ通信」、インターネットによる広報活動、例会、懇親会など、さまざまな活動があります。これらの活動に対して、昨年度は学長表彰を受けるという榮譽に浴することとなりました。

このような成果が短期間に成し遂げられたのは、前代表幹事の金田晋先生、副代表幹事の安藤忠男先生はじめ、先輩諸氏の並々ならぬご努力・ご尽力のおかげであります。

さて、これまでの活動内容を大きく分けると、地域との連携活動、広島大学との連携活動、会員間における交流活動になるのではと考えます。

今後とも、この軸となる活動をもとに、さらに継承・発展させるべく、「広大マスターズ広島」との連携も含めて活動を行ってまいりたいと考えます。

このたびは、第2期目の幹事会体制であるとの認識から、新しい2つの目標を掲げて努力してまいりたい考えです。その一つは、会員同士および会員の皆様と地域との交流に力をいれたいと願っています。このことは、意外に難しい課題かと思いますが、皆様方のご協力を得ながら進めてまいります。他の一つは、「広大マスターズ」の知名度を上げる努力です。これも、皆様方のご協力が無ければ先に進めません。

このたびは、始めて間もない事業もあることから、金田先生はじめ、ベテラン幹事が多く残ってくださいます。大変心強く、感謝申し上げます。

皆様方の知恵と豊富なご経験を結集して、更なる発展を目指しましょう。

どうぞよろしくお願ひ致します。